

令和7年度 共同研究報告書

研究区分		一般共同研究		
研究課題名		IL-6 アンブの関わる炎症性疾患発症機序の解明		
新規・継続の別		新規 ・ 継続		
研究代表者	所属	岩手医科大学医学部 内科学分野 リウマチ・膠原病・アレルギー内科	35歳以下○	40歳以下○
	職名・氏名	教授・仲 哲治		
研究分担者 (適宜行を追加して下さい)	所属		/	/
	職名・氏名			
	所属		/	/
	職名・氏名			
受け入れ教員	職名・氏名	教授・村上 正晃		
概要 (100～150 字程度)		本共同研究では、IL-6 アンブと SOCS 分子の相互作用に着目し、慢性炎症性疾患の分子機構解明を目的とした。今年度は主として研究計画の具体化と解析基盤の整備を進めた。直接の来所・実験実施には至らなかったが、今後の共同解析および論文文化に向けた準備を行った。		
研究目的 (300 字程度)		本研究は、IL-6 アンブを介した炎症性シグナル増幅機構と、JAK-STAT 経路の負の制御因子である SOCS 分子との相互作用を分子レベルで解明することを目的とする。IL-6 アンブは慢性炎症性疾患の発症・進展において中心的な役割を担うことが知られているが、その制御機構には未解明な点が多い。本研究では、SOCS 分子が IL-6 アンブ依存的な炎症シグナルにどのように介入し、炎症応答の強度や持続性を制御するかを明らかにすることで、慢性炎症性疾患の新たな治療標的の同定を目指す。		
研究内容・成果 (1000 字程度・Web 会議の回数も記載)		本年度は、IL-6 アンブと SOCS 分子の機能的連関に関する研究計画の具体化および今後の実験系構築に向けた準備を中心に実施した。具体的には、IL-6 アンブに関与するシグナル伝達経路と SOCS 分子の発現制御機構に関する既報の整理を行い、両者のクロストークを検証するための解析戦略を策定した。また、細胞培養系および動物モデルを用いた検証実験の設計を行い、解析対象となる遺伝子群やシグナル分子の候補を抽出した。 さらに、今後の共同研究において必要となる試薬、実験条件、および評価系 (JAK-STAT 活性評価、炎症性サイトカイン発現解析等) について検討を行い、研究遂行の基盤整備を進めた。本年度は、研究代表者および受入教員間での情報共有を主として電子的手段により行い、研究方針のすり合わせおよび今後の共同実験の		

	<p>進め方について協議した（Web 会議：実施なし、電子メール等による連携）。</p> <p>当初予定していた来所による共同実験には至らなかったものの、研究課題の学術的意義および実現可能性を再確認し、今後の具体的な解析計画を明確化することができた。現在、細胞および動物モデルを用いた実験の開始に向けた準備が進行しており、得られる知見については今後速やかに論文化を目指す予定である。</p>
成果	<p><b>【学会報告】</b>  <b>参加者名、講演タイトル、学会名、開催場所、開催日時入力のこと</b>  該当なし</p> <p><b>【論文発表】</b>  <b>著者、論文名、掲載誌名、号・年・ページ等、IF 入力のこと</b>  該当なし（現在、論文化準備中）</p> <p><b>【新聞報道】</b>  該当なし</p> <p><b>【学位取得者】</b>  <b>学部名・学年（または職位）・氏名を入力のこと</b>  該当なし</p>